

## 第 79 期第 1 回ダイバーシティ推進委員会議事録

日 時： 2023 年 4 月 21 日（金） 15 : 00～17 : 30

場 所： オンライン会議（Zoom）

（敬称略）

出席者： 小林夏野（委員長）、山本文子（副委員長）、石原安野（16:00 まで）、  
板橋健太（16:30 まで）、岩崎昌子、齊藤準（16:15 まで）、田島節子、  
所裕子（16:50 まで）、成木恵、濱口幸一（17:00 まで）、服部梓、  
肥山詠美子、溝川貴司（15:40 以降）、山本貴博（16:00 まで）（以上委員）  
板倉明子、野尻美保子、市川温子、門信一郎、中本有紀、野中千穂（以上オブザー  
バー）

見供、佐藤（17:00 まで）、宮野（事務局）

欠席者： 大畠悟郎（以上委員）

### <配布資料>

資料 1\_第 79 期ダイバーシティ推進委員会委員名簿

資料 2-1\_関西科学塾 2022 年度全体報告

資料 2-2\_賛助会員ブース報告

資料 3\_実施要項 2023\_夏学 2023

資料 4\_2022 年度第 1 回物理応物連絡会議事録

資料 5-1\_ランチョンミーティング資料

資料 5-2\_チラシ\_ランチョンミーティング 2023 春

資料 6\_男女共同参画推進委員会年間スケジュール

### 【議事】

1. 自己紹介を行った。

2. 関西科学塾報告

[2022 年度全体]（田島委員）

田島委員より、関西科学塾の概要として、京都大学、大阪大学、神戸大学、奈良女子大学、大阪公立大学が 1 年ごとに幹事校となり運営していること、中高生に理工系の面白さをアピールすることを目的としており、物理の実験だけでなく理工系全体の実験を企画していることが説明された。

また、資料に沿って、2022 年の関西科学塾開催の報告がされた。夏休み、冬休みにあた

る日程では賛助会員企業の工場見学や身近なロールモデルとの懇談会を実施し、その他の日程では大学を会場とした実験講座を開催したことが報告された。また、賛助会員の中には、積極的に協力を申し出てくださる企業がいくつかあり、職場見学、工場見学が実施できていることも報告された。

#### [2023. 3. 18-19 の賛助会員ブース] (服部委員)

服部委員より、資料に沿って、賛助会員ブースでの様子、費用等が報告された。また、参加者へのプレゼントとして用意した名刺サイズの小さなカードが好評であったこと、実験が大変盛況で、予定していた現役の大学院生と関わる企画を時間の都合で行えなかったことが報告された。

参加した感想として、以下のことが述べられた。

保護者との触れ合いが刺激的で、娘さんが理系に進学することへの不安を抱えていらっしやる方がいることを実感した。会場では保護者から多くの質問が出ており、回答する企業の方も活発に発言をしていた。物理の楽しさをうまく伝える方法について考えるきっかけとなった。

また、形に残るものをおみやげとして持ち帰れることは参加者に喜ばれ、目で見る、手で触ることもよい経験になるので、今後も用意できると良いのではないかと。

また、ご息女が関西科学塾に参加された委員より、おみやげのカードをととても喜んでいたり、大学、企業の両方の方のお話を聞いたことが良かったとおっしゃっていたことが報告された。

### 3. 女子中高生の夏の学校 2023 報告 (山本副委員長)

山本副委員長より、2023 年のポスター、実施要項に沿って開催内容等が以下の通り報告された。

3 年振りの対面開催となり、昨年までのオンライン開催の経験を生かしてハイブリッドの企画も計画している。物理学会からはポスター、実験の参加意向を事前調査で受領済み。

また、以前の開催時には、物理学会に入りたいという生徒がいたことがあり会友制度を紹介したこと、参加した生徒はこの分野で活躍する女性がこんなにたくさんいるのだと感動してくれることが紹介され、今後も、物理学会からの参加、協力が要請された。

#### 4. 物理応物連絡会 The 8th International Conference on Women in Physics

(ICWIP) [ 2023. 7. 10-14]参加準備報告 (野中オブザーバー)

野中オブザーバーより、資料に沿って、チームメンバー、発表予定内容等が説明され、4月30日のアブストラクト登録締め切りに向けて準備中であることが報告された。

なお、資料の物理応物連絡会議事録に、AAPPSについては本年の開催不明と記載があったが、今年はAPPC(Asia Pacific Physics Conference)開催年ではないことが確認された。ただし、AAPPSのWomen in Physics WGとしてICWIP前後に会合をやる可能性があることが、AAPPS WIP WGのChairである野尻氏より報告があった。

#### 5. 2023年春季大会ランチョンミーティング報告[2023/3/23(オンライン)] (岩崎委員)

岩崎委員より、資料に沿って報告がされ、多くの参加者があり対面開催時と同等の盛況さであったことが報告された。

今後の開催については、2024年3月大会でのオンライン開催とするか、2024年9月大会での対面開催とするかから検討しなくてはならないため、まず担当委員で検討事項を洗い出し、9月開催のダイバーシティ推進委員会までにまとめることとなった。並行して、今後のランチョンミーティングのアイデアなどがあれば、メールで担当委員に寄せていただければ、オブザーバーに依頼された。

#### 6. 第79期ダイバーシティ推進委員会 担当決め

以下の通り、担当が決められた。

小林 夏野 (委員長)	全体統括、学協会連絡会
山本 文子 (副委員長)	女子中高生夏の学校
石原 安野 (委員)	物理応物連絡会
板橋 健太 (委員)	HP/広報
岩崎 昌子 (委員)	ランチョンミーティング
大畠 悟郎 (委員)	託児室
斉藤 準 (委員)	学協会連絡会、女子中高生夏の学校
田島 節子 (委員)	関西科学塾
所 裕子 (委員)	学協会連絡会
成木 恵 (委員)	学協会連絡会、託児室
濱口 幸一 (委員)	学協会連絡会、物理応物連絡会
服部 梓 (委員)	女子中高生夏の学校、関西科学塾
肥山 詠美子 (委員)	物理応物連絡会

溝川 貴司 (委員)	女子中高生夏の学校
山本貴博 (委員)	ランチョンミーティング
板倉 明子 (オブザーバー)	物理応物連絡会
市川 温子 (オブザーバー)	物理応物連絡会
門 信一郎 (オブザーバー)	女子中高生夏の学校、物理応物連絡会
中本 有紀 (オブザーバー)	女子中高生夏の学校
野尻 美保子 (オブザーバー)	国際会議
野中 千穂 (オブザーバー)	物理応物連絡会

また、4月24日現在、メール審議にて、下記の分担が審議中。

田島 節子 (委員)	AAPPS WIP WG
野尻 美保子 (オブザーバー)	AAPPS WIP WG

#### 7. 留学生取り込みや各種英語化について

山本副委員長より、以下のことが説明された。

理事会にて、長谷川会長から今期の方針の説明があり、ダイバーシティ推進委員会には他の委員会と協力しながら、留学生の取り込み、英語化ができるかどうか検討してほしいとの打診があった。委員会に持ち帰りとさせてもらったので、委員会として方針を検討したい。

意見交換、検討の結果、以下の通り決定した。

- ・活動内容を広げる余裕はないため、基本的には男女共同参画推進に関する従来の活動に注力する。
- ・当委員会は問題提議をしていく責務を担っているため、ランチョンミーティング開催など、可能な範囲で声を吸い上げる活動を行い、理事会に提議できるよう取り組む。

意見交換、検討の内容は以下の通り。

- ・前期の委員会名称変更の際は、委員会としては、名称そのものの変更は了承し、業務を増やすかどうかについて具体的な議論はなかったと記憶している。理事会では、委員名称変更を諮った際に「英語で委員会を開催するのか」という質問を受けたが、日本語での開催を明言した。研究環境委員会との棲み分けも大切であり、名称変更にとどめたという理解をしている。
- ・広範囲におよぶダイバーシティ問題において、具体的に学会として対応できる課題は絞ら

れてしまう。できるものとしては外国人研究者への対応ではないか。たたき台を委員会で作り、理事会に提案することならできるのでは。大会のスライド英語化が進んでいるので、概要集を英語にするなどの例を理事会にあげ、アクションは理事会、大会担当理事が行う。そういう提案や例をいくつか挙げることはできるのではないか。例えば、委員が所属している組織の周辺で声を集めてみる。留学生を集めたランチョンミーティングを開き物理学会への希望を聞いてみるなど。

- ・委員会の活動として、手を広げすぎると大変かもしれない。学会としてはまずはジェンダーのことを取り組んでほしいと思う。外国人、留学生への直接的な対応は大学がやることなので、学会の活動としてランチョンミーティングはいい案だと思う。
- ・ランチョンミーティング開催によって、いろんな分野の留学生が何を考えているのかがその場で見えるのはいい。留学生同士のつながりも生まれるのではないか。
- ・本委員会は、直接的な活動ではなく問題提議をする委員会であるべき。そのため、ランチョンミーティングで何に困っているのかを聞くことは良いことだと思う。
  - 学会誌の英文記事掲載を編集委員会と協力して検討する、大会の英語発表について大会担当と協力して検討することも打診されている。
  - 理事会から編集委員会、大会担当に提案いただき、各委員会で検討いただくべきではないか。
- ・他学会では、ダイバーシティになったとたんに、男女に限定した支援ばかりできないという事で、男女共同参画推進活動への従来支援が弱くなった例がある。委員会の名称変更により男女共同参画推進活動を縮小させるべきではない。既に従来活動だけでも業務が豊富なため、急速に業務を広げることはせず、今年度の業務内容は前年度を踏襲することがよい。
  - ダイバーシティに変わったことで行うことは、「声を吸い上げる」ランチョンミーティング。

以上